学校医　齋藤　茂子先生宛ての質問

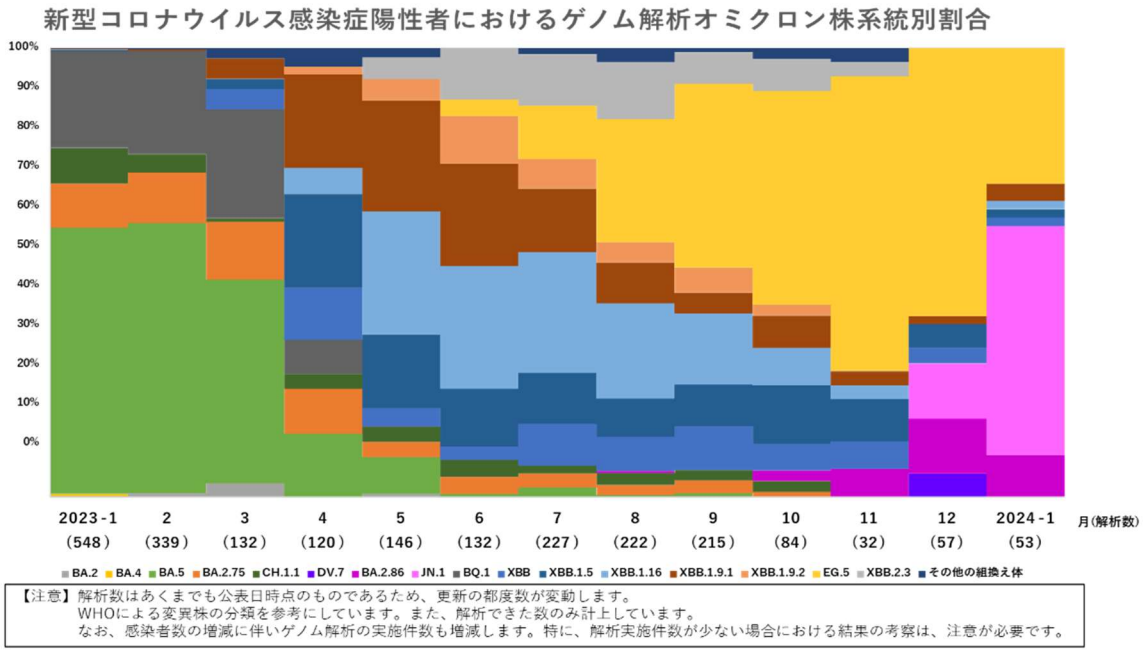
【感染症について】

Q:新型コロナウイルス感染症が流行し始めた 2020 年から、手洗い・手指消毒、教室等の換気などの感染症対策を継続して行ってきました。ですが、新型コロナウイルス感染症が 5 類になった 2023 年は継続してきた感染症対策を行っていても、インフルエンザもコロナウイルス感染症も学校内で感染が拡大するケースが増加した印象があります。

どうして同じように対策をしていても感染症にかかってしまうのか、原因がわかれば教えていただきたい。また、障害の特性もありますが、学校や家庭で今行うべき感染症対策はなにか教えていただきたいです。

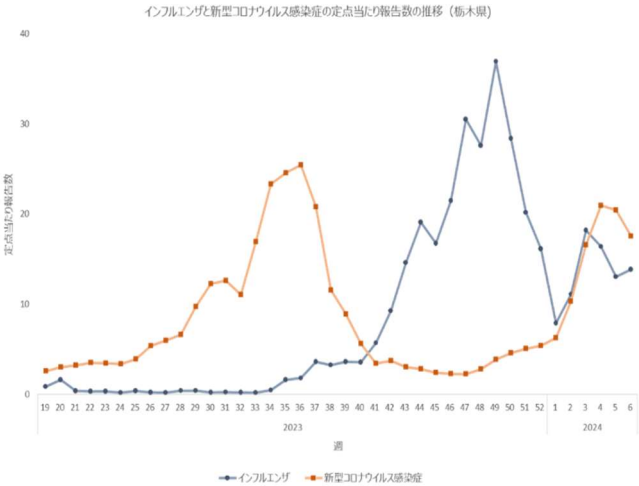
A:ウイルス自体にわからないことはたくさんあり、通常の生活の中で完全に予防することは難しいです

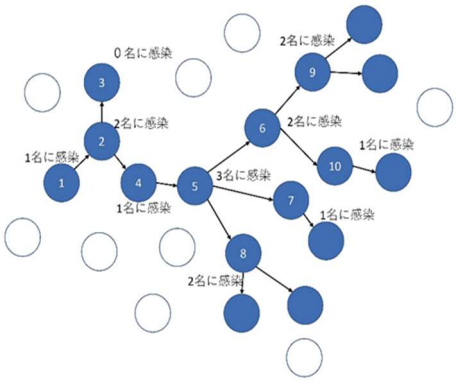
① ウイルスは変異する。一度罹患しても、別の株に感染してしまう



② 複数人が感染すれば広まる。飛沫感染が起こりやすく、アルコール消毒も無効なウイルスもある。

・感染の発端は海外からの移入。十分な免疫を持たないことで拡散、「流行」になる。





・2020 年 1 月の新型コロナウイルス感染症発生から 2022 年 11 月まで、約 3 年間、インフルエンザはほとんどありませんでした。

＊新型コロナウイルス感染症の初期のような緊急事態宣言や休校措置などで、人同士の接触が少なければ感染者数は減らせますが、人としての生活が難しくなります。社会全体の免疫力も低下しています。

＊感染症を完全に予防することは難しいことです。各自が、ワクチンや自然感染で免疫力をつけたり、免疫力を下げないように生活リズムを整えること、集団では、換気や汚染物の処理を注意することを継続してほしいと思います。

【その他】

Q:子宮頸がんワクチンの接種推奨が再び始まりましたが、予防接種は打った方がよいのでしょうか。

A:ヒトパピローマウイルス（HPV）は、性的接触のある女性であれば 50%以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。子宮頸がんをはじめ、肛門がん、膣がんなどのがんや、尖圭コンジローマ等、多くの病気の発生に関わっています。特に、近年若い女性の子宮頸がん罹患が増えています。日本では毎年 10,000 人以上の女性が新たに子宮頸がんと診断されています。また、年間約 2,900 人の女性が子宮頸がんで命を落としています。

副反応としては、注射の痛みや怖いという気持ち、興奮などによるさまざまな刺激がきっかけとなって、めまいやふらつきを起こしたり、気を失うこと（失神）があります。まれですが、重い症状（重いアレルギー症状、神経系の症状）が起こることがあります。

＊定期接種は高 1 まで、定期接種の機会を逃したキャッチアップ接種もありますので、接種することを勧めます。海外では、男性も HPV ワクチンを行うところが増えています。

Q:坐薬の使用頻度によって、身体への影響や発育上の影響はありますか？

A:熱性けいれん予防に用いられる「ダイアップ」は眠気、ふらつき、ときに興奮することがありますが、長期的な副作用は報告されていません。

＊「ダイアップ」は効果発現に時間がかかるため、有熱時のけいれんに予防的に使用されるものであり、本来は発作を止めるためのものではありません。